

震災直後、自宅から撮影された長田区の市街地 (遺族提供)

神戸文学館企画展

阪神・淡路大震災30年

# 詩人が見た 1.17

安水稔和の記憶をつなぐ

2025年1月11日(土)~3月16日(日) **入館無料**



神戸新聞社提供

「亡くなった人の記憶のために、  
生き残ったわたしたちの記憶のために」

詩集『生きているということ』(1999年)のあとがきから

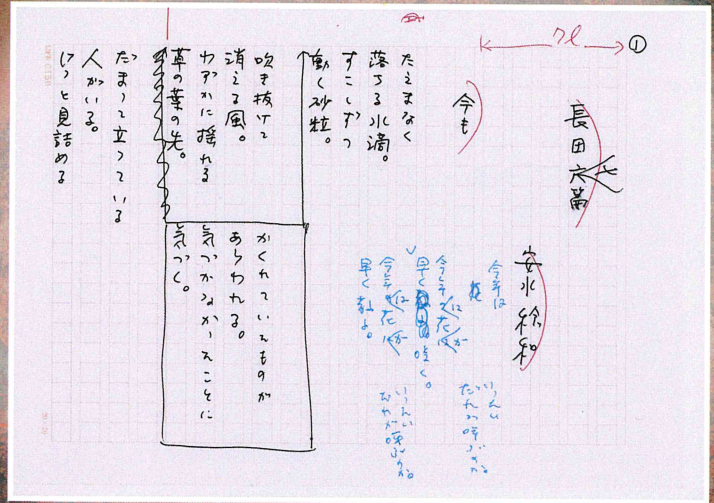
〒657-0838 神戸市灘区王子町3丁目1-2(王子動物園西隣) TEL・FAX 078-882-2028

【休館日】毎週水曜日(祝日の場合は翌日)

【開館時間】平日:午前10時~午後6時 土・日・祝日:午前9時~午後5時

主催:神戸文学館

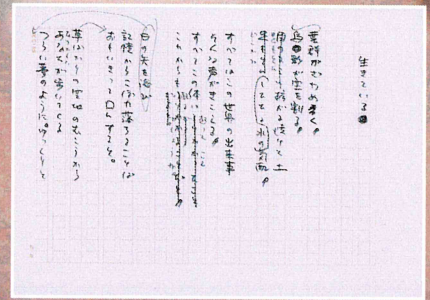
協力:安水玲子 季村敏夫 平松正子 神戸アーカイブ写真館 神戸新聞社 読売新聞大阪本社  
気仙沼市 (一社)気仙沼市観光協会 陸前高田市 (順不同 敬称略)



「今も」の草稿(1995年8月)

1995年1月17日午前5時46分、阪神・淡路大震災が発生しました。神戸市長田区に住む詩人安水稔和は、震度7の大きな揺れに自宅で襲われ、次々と炎にのまれていく街並みを見つめていました。自身が体験した50年前の神戸大空襲の記憶と重なる赤々と燃える光景。震災直後から自転車で市内を巡り、見逃すまい、聞き逃すまいと感性を研ぎ澄ませました。その中で、失われた命への鎮魂と、残された命の回復に心を震わせた安水は、目の前の出来事を詩に託します。記憶を言葉で救い、言葉で記憶を後世につなごうとする強い思いは終生、衰えることはありませんでした。

阪神・淡路大震災から30年。2022年に亡くなった兵庫県を代表する詩人安水稔和が「言葉」で残した震災の記憶と、次代へ伝えようとする思いが込められた詩の世界に触れてください。



「生きていくということ ふたたびの夏に」の草稿(1996年8月)

やすみず としかず

## 安水稔和

兵庫県を代表する詩人。元神戸松蔭女子学院大学教授。

1931年神戸市須磨区生まれ。神戸大学文学部卒業。在学中から詩誌に携わる。

63年、多田武彦作曲の合唱曲「京都」の作詞で文部省芸術祭奨励賞、73年、ラジオドラマ「旅に病んで」で同祭優秀賞受賞。その後、詩集『記憶めぐり』(第14回地球賞)、詩集『椿崎や見なんとて』(第16回詩歌文学館賞)、詩集『蟹場まで』(第43回藤村記念歴史賞)など受賞作多数。また、95年の阪神・淡路大震災では神戸市長田区の自宅で被災。直後から震災を主題とした詩を精力的に発表。97年には被災地の詩人に呼びかけ、「兵庫県現代詩協会」を設立し、会長を三期務めた。2022年死去。



## 阪神・淡路大震災

1995年1月17日午前5時46分に発生。震源地は淡路島北部、規模はマグニチュード7.3。被害は兵庫県南部を中心に死者6,402人、住宅被害は全壊103,823棟、半壊136,524棟。うち神戸市の死者4,564人、全壊61,800棟、半壊51,125棟。避難生活者は約31万6,678人に上った。

## 神戸文学館

〒657-0838 神戸市灘区王子町3丁目1-2(王子動物園西隣)  
【入館無料】 TEL・FAX 078-882-2028

■交通案内：阪急電鉄：王子公園駅から西へ約500m  
JR：灘駅から北西へ約600m  
阪神電車：若屋駅から北西へ約800m  
市バス：王子動物園前から西へ約200m

■開館時間：平日 午前10時～午後6時  
土・日・祝日 午前9時～午後5時

■休館日：毎週水曜日(祝日の場合は翌日)

